

# 団結で要求実現と組織強化を 職訓協第42回定期総会開催



▲さらなる組織強化などを確認した職訓協第42回定期大会

6月23日、職業訓練職員協議会第42回定期総会が盛岡市・マリオスで開催され、2017年度の運動総括とともに、2018運動方針と役員体制を確立した。

開会に当たり、渡邊議長は、「昨年度からの課題として各職業訓練校の自動車システム科の指導員増員を柱として要求を強化してきた。6月20日の労働課長交渉で定数要求を進めるとの回答を得たが、引き続き取組が重要となる。一方で自動車整備士の需要動向や施設の改修も課題であり、職業訓練校の再編の可能性の話も言及された。2021年度からの次期計画を見据え、定員、施設、指導員数等の具体的な議論が進められると思われるが、現場を熟知している指導員の声

が、現場を熟知している指導員の声は、その後の、執行部から要求交渉の闘争サイクルの推進、組織活動強化、自治研活動の推進を柱とした運動方針等が提起され、代議員から課長交渉を踏まえた課題について関連な方針補強

- ・議長 渡邊 雅孝 (産技短矢中学校)
- ・副議長 松尾 才治 (産技短矢中学校)
- ・副議長 有原 一文 (産技短水沢校)
- ・事務局長 飯坂 覚 (産技短矢中学校)
- ・事務局次長 氏家 亨 (産技短矢中学校)
- ・事務局次長 鳥川 和男 (二戸高等技術専門学校)



▲雇用対策・労働室の鎌田労働課長との交渉に臨む職訓協執行部 (右奥)

【①指導員経験者の高等技術専

【②高等技術専門学校自動車システム科の訓練指導体制】

【③欠員解消策】

【④施設改修】

## 職訓協、要求書提出し 主管課長交渉

### 人員・処遇・施設改修などの改善を求める

6月20日、職業訓練職員協議会(渡邊雅孝議長・盛岡分会)は、5月下旬に職業能力開発施設のオルグを実施し、「職業能力開発の職員・施設に関する要求書」として取りまとめ、雇用対策・労働室鎌田労働課長に提出し、交渉を行った。主な交渉概要は次のとおり。

所属長ポストとして職業訓練の経験だけでなく行政上の責務もあることを言及しつつ、校長の特殊性に配慮した人事的対応を人事当局にも伝えるとの姿勢にとどまった。交渉団から、指導員の昇格等が遅く、到達ポストの確保と併せ、指導員の処遇面での配慮を含め、対応を求めた。

門校における校長・校長補佐への登用

【③欠員解消策】

【④施設改修】

▲鎌田労働課長(右)に要求書を手渡す渡邊職訓協議長

員の配置に関し、商工労働観光部長を含め課題意識を持つており、民間における自動車整備士の需要動向等を総合的に考慮のうえ、指導員体制の拡充に向けた定数要求のため検討を進めているとした。交渉団から、人員拡充の実現を求めた。

要望を踏まえ人事当局や商工企画室とも連携して善処に努めるとの姿勢にとどまった。交渉団から、庶務業務が指導員の負担となつていて実態等を訴え、早急な是正を求めた。併せて、若年指導員の採用と計画的な人事配置等を要求した。

施設改修は順次優先度を付して対応していること、基本であり、当局に認識させなければならぬ。オルグ等の機会でも率直な意見を集約していく。職訓協の組織率は9割であり、指導員の横のつながりを深め、要求実現に向け、太い団結から運動を強化しよう」とあいさつ。その後、小野中央執行委員長から連帯の挨拶を行った。

その後、執行部から要求交渉の闘争サイクルの推進、組織活動強化、自治研活動の推進を柱とした運動方針等が提起され、代議員から課長交渉を踏まえた課題について関連な方針補強



▲課題の前進と組織拡大へ決意を込めて団結ガンバロー

必要と認識。意識をもって取組を強化する。人員確保要求において恒常的な長時間労働となる職場の増員など定数増に向け

た要求も強化していく。《釜支部・葛西代議員》

《二戸支部・中村代議員》

《県職労総合共済規程等の一部改正に係る質疑答弁》

## 2018文化塾 佐高信 「加計学園スキャンダル」 森功さん(ノンフィクション作家)が講演

6月23日、2018佐高信文化塾が岩手教育会館で開催された。1回目は「加計学園スキャンダルを追って」と題してノンフィクション作家の森功さんが講演した。

演。先般の加計理事長の突如の記者会見はまさに嘘の上塗りであること、加計理事長のスケジューリング管理は徹底されており、過去の事例を見れば首相との面会など

そのうえで、安倍首相や加計理事長らによる「悪たくみメンバー」結成以降、着々と安倍政権を利用して獣医学部新設に至り、官邸主導の国家戦略特区を利用し、文部科学省の規制も排除して進められたものであるとし、まさに安倍村度政治の象徴であると説明。

最後に、安倍村度政治の転換のため、真実を明らかにし、問題を追及し続ける必要があると訴えました。



▲講演する森功さん

真実暴き 安倍村度政治の転換を!

真実暴き 安倍村度政治の転換を!

真実暴き 安倍村度政治の転換を!



▲平和の火を灯したトーチを手に走るランナー



▲県公会堂前で次のランナーに引き継ぎ



▲左から、中川本部中執、達増知事、倉本実行委員長(岩教組)、佐藤県議、中村実行委員(県交通労組)

第31回反核・平和の火リレー

語り継ごう 走り続けよう ヒロシマ・ナガサキの心を  
核兵器禁止条約への署名の働きかけ要請

達増知事 取り組みに理解示し激励

ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下から73年。昨年7月「核兵器禁止条約」が国連会議で採択され、50か国以上の国はすでに署名しているにもかかわらず、唯一の戦争被爆国である日本政府はいまだ条約署名の姿勢を示していません。

今年の「走りつなごう広島」の心を「スローガン」にスタートした第31回反核平和の火リレーでは、6月8日に二戸市役所へ「平和行政の推進に関する要請書」提出行動を実施したのち、二戸市の堀野近隣公園を出発、10日までの3日間、広島平和記念公園の平和の火を、一関市まで走りつなごました。

6月6日には、佐藤ケイ子県議会議員(自治労北上市職出身)の同席のもと、達増拓也岩手県知事へ要請行動を行いました。この知事への要請行動には、中川理恵実行委員会事務局長(県職労)も出席し、平和の取組みの重要性について意見を述べ、知事から激励を受けました。

倉本祐太郎実行委員長(岩教組青年部長)は、「非核・平和自治体宣言」を活かし、平和行政の推進につとめること、すみやかな核兵器廃絶、平和な国際社会の実現と国民の基地負担の軽減のため、日本政府の核兵器禁止条約への署名等を政府へ働きかけること、自然エネルギーの普及促進等について要請しました。

働き方改革は現場の勤務時間の適正管理から

依然減らない超過勤務と不払い残業

当局は、6月11日の庁議において昨年度の超過勤務の状況を示した。全庁の年平均超過勤務時間は178・9時間(月間14・9時間)と、いわて国体や台風10号災害対応があった2016年度(年間200・2時間)より減少したものの、2015年度比8・5%増となり、東日本大震災の発災以降2番目に多い状況となった(詳細は下表のとおり)。

しかし、この数値は超過勤務手当を支給した場合のみで、県内各公所で散見される不払い残業は反映されていない。現在、超過勤務の管理は、自己申告制によるところが多く、事実上裁量労働の状況となっている。県職労は交渉の都度、不払い残業の実態を示し、是正を求め続けているが、現場での適正な勤務時間管理と不払い残業を認めない職場づくりが不可欠だ。県職労は、今年度中に当局と2010年に締結した36協定の更新を含め、適正な勤務時間の把握と超過勤務確保・適正支給に向けた現場実態にこだわった運動を展開していく。各職場からも本部・支部に実態を寄せていただくようお願いする(不適正事案の場合は、当局に随時是正を求める)。

現場実態を踏まえた改善要求を

当局は、6月11日の庁議で長時間労働の縮減策を示し、①各所属長が所属の実情に応じた長時間勤務の縮減に取り組む、②「か・えのり」の設定、③休暇取得の促進、④部長表彰「業務効率化・合理化部門」の実施などを掲げている。しかし実際には業務量は変わらず、実態を伴う改善には程遠い。さらに、部長表彰や人事評価で業務の効率化などを掲げる場合、職員が委縮し、長時間労働せざるを得ない実態を明らかにできないというマインドも懸念される。そもそも当局は大規模欠員を現場に押し付け、長時間労働せざるを得ない状況

仲間の“輪”ひろげよう!! 「新加入組合員の歓迎会」 & 「青婦部全体学習交流会」開催!

県職労青年婦人部では、新規に組合加入をされた組合員の皆さんの歓迎会と青婦部組合員を対象とした交流会を開催します。新規加入組合員の皆さん、あなたも参加して仲間の“輪”をひろげませんか!!

記

◆日時: 2018年7月21日(土) 午後1時30分~

◆場所: 盛岡市「新・岩手教育会館」

◆内容: グループ交流♪・学習会♪

◆対象者: 新規加入組合員のみなさん  
青婦部組合員のみなさん  
新規加入組合員の先輩組合員のみなさん  
※詳しくは、各支部書記局まで。

花巻市議会議員選挙 7月22日告示・29日投開票

若柳よしあきさんの推薦を決定



若柳よしあき (69) 社民現

7月22日告示・29日投開票の花巻市議会議員選挙では、自治労組織内(花巻市職労出身)の「若柳よしあき」さんを推薦決定し、組合員・御家族への支持拡大に全力を挙げています。働く者の政策を市政に反映し、憲法を活かした社会の実現のため、組合員の皆さんの力で議会に送り出そう。

プロフィール

- ◆1948年 12月2日 花巻市大迫町生れ(69歳)
- ◆1967年 県立大迫高等学校卒業
- ◆同年 大迫町役場入職
- ◆2000年 町教育委員会社会教育課長
- ◆2001年 町教育委員会学校教育課長
- ◆2005年 大迫町役場退職
- ◆2006年 花巻市議会議員当選(現在3期目)

1人当たりの平均超過勤務時間数(全庁)

年度	平均時間(年間)	平均時間(月間)	対前年度増減比(年間)
2017年度	178.9時間	14.9時間	10.6%減(2015年度比8.5%増)
2016年度	200.2時間	16.7時間	21.4%増
2015年度	164.9時間	13.7時間	5.4%増
2014年度	156.5時間	13.0時間	0.4%増
2013年度	155.9時間	12.9時間	7.4%増
2012年度	145.1時間	12.1時間	12.8%減
2011年度	166.4時間	13.9時間	17.0%増

を生じさせた責任がある。2017年度、岩手県地方公務員共闘会議での交渉の結果、県人事委員会勧告の報告の部において「恒常的に長時間勤務が解消されない場合においては、業務量や業務内容に応じて、適切な人員体制を確保するなど、より実効性のある取り組みが必要であると考え」と言及させた。これ以

一関支部体制確立 新年度の活動をスタート

一関支部は5月23日、2018年度の支部体制を確立、新年度の支部活動をスタートさせた。



佐々木 知正 一関支部長

- 支部長 佐々木知正(農林振興センター)
- 副支部長 菊池 浩之(農産普及センター)
- 高橋 義博(一関土木センター)
- 書記長 加藤 秀樹(児童相談所)
- 書記次長 千葉 拓也(県税センター)

教習部からお知らせ

6月15日発行予定の機関紙1510号は休刊としました。6月30日発行機関紙は前号との合併号となります。

上の業務縮減は限界だ。県人勧の言及どおり、人員確保・定数増に向けた要求・交渉を強化する必要がある。働き方の実態にこだわった人員要求を進めよう。

県職労では、夏から秋の定数要求時を見据えた職場・職域での要求を強化する。働き方の実態にこだわった人員要求を進めよう。